

神奈川県同窓会 春の行事報告

平成30年度「6月能楽鑑賞」＜能（葵上）、狂言（清水）＞

報告者 勝山悌治



国立能楽堂前にて



能楽堂舞台観覧席

実施月日 : 平成30年6月22日（金）晴/曇
参加人数 : 34名（男性17 女性17）
幹事 : 勝山悌治 小野寺愛子 渡邊久江
写真撮影 : 佐藤 敬

梅雨とは言え晴/曇と天候にも恵まれ、東急東横線横浜駅9:19発急行直通で37分、北参道駅下車、ゆっくりおよそ10分歩いて国立能楽堂到着した。写真撮影の後、資料展示室を見学しました。資料展示室では入門展示の面や装束や絵画資料など所蔵の能楽資料を中心に、能楽の基礎的な知識をわかりやすく展示紹介されており、大変感銘を受けました。

11時より、高校生中学生で満席の中、全員が最高の正面席で、嫉妬と恨みの感情でいっぱいになった六条御息所の生霊（能：葵上）、清水に鬼が出たと嘘をつく太郎冠者（狂言：清水）を堪能しました。

今回の流派は、能はシテ（主役）五流派（観世・宝生・金春・金剛、喜多）の中の喜多流、狂言は現在、二流派（大蔵・和泉）の中の和泉流であります。

13時過ぎより、併設のお食事処＜向日葵＞で昼食を共にし、その後「ミニカフェ」と称するビール（一部コーヒー）とおつまみ（ハルマキ・ポテト等）で団欒のひとつきを過ごし、15時頃お開きとなりました。

ところで、能と狂言の違いですが、能は日本の舞台芸術で歴史のある神話や物語を題材に悲劇が多いようです。能面を使用して、現代で例えれば古典舞台劇であります。

狂言は一般庶民の日常生活や人間の滑稽な部分を題材にした笑いの寸劇で、現代に例えればお笑い舞台劇であります。

能楽は予めあらすじを読んで観ると、良く理解でき、機会あればまた観たいと思っております。

「6月能楽鑑賞」あらすじ

平成30年6月22日(金) 神奈川同窓会春の行事

能 葵上 (喜多流)



光源氏の正妻、葵上は重い病に伏せています。

帝に仕える臣下が巫女に命じて原因を探らせると、そこに現れたのは源氏のかつての恋人六条御息所の生霊でした。

御息所は華やかだった過去を語りますが、葵上のために今は愛する源氏の足が遠のいたと、嫉妬のあまり我知らず生霊となって葵上を打ち据えます。

事態を重く見た臣下によって横川の小聖が呼ばれ、小聖が祈り始めると今度は鬼の姿に変じた御息所が現れます。

しかし、祈りの法力に御息所は鬼の心を和らげ、成仏するのです。

狂言 清水 (和泉流)



お茶の会を催す主人から、野中の清水に水を汲みに行くように命じられた太郎冠者は、面倒なので鬼が出たと嘘をついて戻ってきます。

主人は太郎冠者に持たせた大切な水桶が心配で清水に確かめてゆくと、本当に恐ろしい鬼が出てきて脅かします。

しかし、鬼は何故か太郎冠者最良、しかも声が太郎冠者にそっくりで、主人に正体を見破られ、太郎冠者は主人に追われて逃げていきます。

(国立能楽堂 能楽鑑賞教室 パンフレットより)

幹事 勝山悌治